

2011年度リエゾンゼミ I の教育効果に関するアンケートの結果（報告）

FD 委員会

I. アンケートの概要

2012年5月下旬～6月上旬に2年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学士力達成度 19 項目（キャリア形成への取り組みを含む）、意欲 2 項目より構成。338名の回答が得られた（回答率 25.1%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性と施設・設備等の利用状況

回答者の属性と施設・設備等の利用状況は表 1 の通りであった。

表 1-1 属性

属性	人数 (%)
性別	男子 111 (33.2)
	女子 223 (66.8)
入試形態	AO入試 28 (8.3)
	推薦 92 (27.2)
	一般 218 (64.5)
居住形態	自宅 152 (45.0)
	自宅外 186 (55.0)
部・サークル活動の所属	無 68 (20.6)
	有 262 (79.4)
ボランティア活動の経験	無 151 (44.7)
	有 187 (55.3)
国際交流の経験	無 325 (96.4)
	有 12 (3.6)
アルバイトの経験	無 125 (37.1)
	有 212 (62.9)
「キャリアデザイン I」の履修	無 160 (47.5)
	有 177 (52.5)
「実学臨床教育」の履修	無 167 (94.4)
	有 10 (5.6)
「副専攻」の履修	無 180 (90.5)
	有 19 (9.5)

表 1-2 施設・設備の利用状況

施設・設備等	人数 (%)
図書館の利用	なし 24 (7.1)
	たまに 122 (36.2)
	ときどき 137 (40.7)
	頻繁に 54 (16.0)
美術工芸館の利用	なし 297 (88.1)
	たまに 31 (9.2)
	ときどき 6 (1.8)
	頻繁に 3 (0.9)
キャリアセンターの利用	なし 198 (58.6)
	たまに 101 (29.9)
	ときどき 32 (9.5)
	頻繁に 5 (1.5)
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室の利用	なし 213 (63.6)
	たまに 97 (29.0)
	ときどき 21 (6.3)
	頻繁に 4 (1.2)
コミュニケーション・タイムの利用	なし 315 (94.3)
	たまに 15 (4.5)
	ときどき 4 (1.2)
	頻繁に 0 (0.0)
UNIVERSAL PASSPORTのクラスプロファイリングの利用	なし 127 (37.7)
	たまに 116 (34.4)
	ときどき 77 (22.8)
	頻繁に 17 (5.0)
ピア・メンターの利用	なし 324 (95.9)
	たまに 9 (2.7)
	ときどき 2 (0.6)
	頻繁に 0 (0.0)
Webテキスト「リエゾンゼミ・ナビ『学びとの出会い』」の利用	なし 229 (67.8)
	たまに 93 (27.5)
	ときどき 15 (4.4)
	頻繁に 1 (0.3)
元気点検票の利用	なし 221 (65.4)
	たまに 101 (29.9)
	ときどき 15 (4.4)
	頻繁に 1 (0.3)

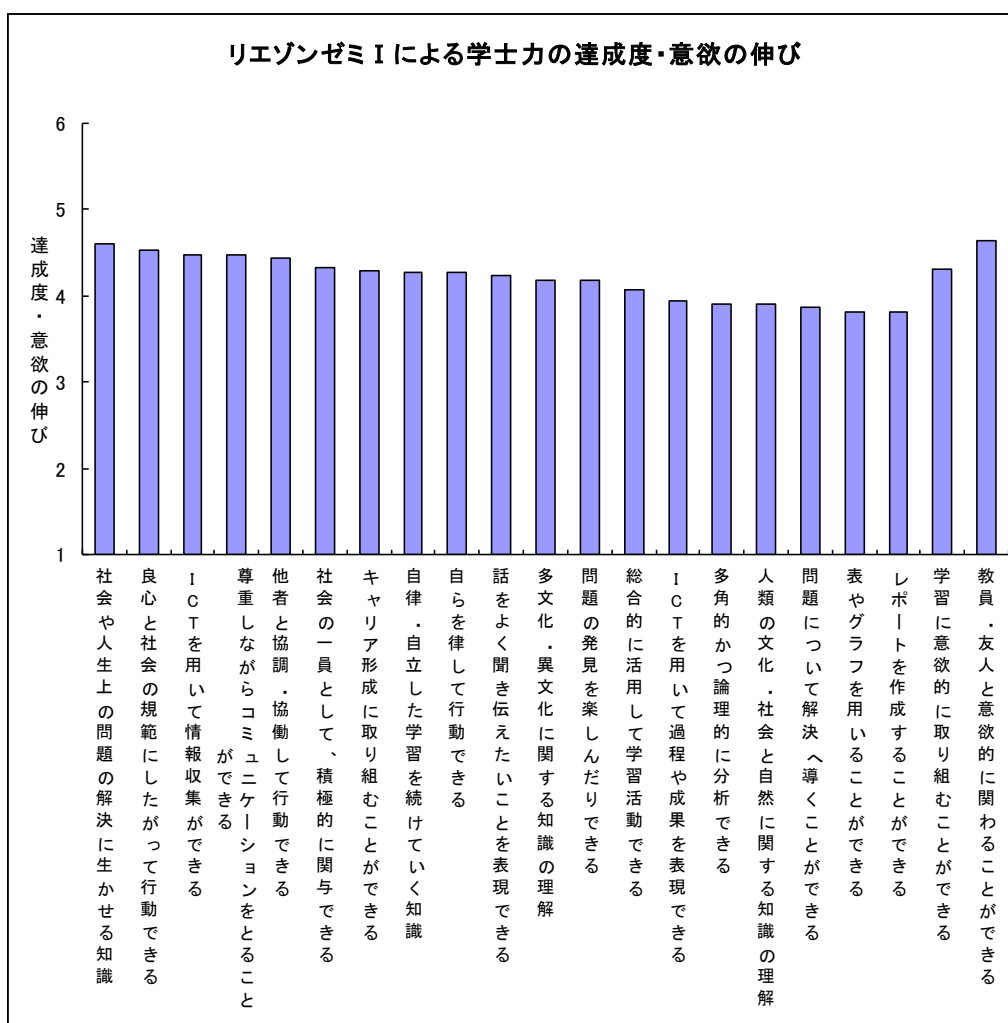
※コミュニケーション・タイムとピア・メンターの利用は、なし・ありに、その他の利用はなし・たまに・ときどき（頻繁を含む）に再分類する。

2. 学士力達成度・意欲の伸び

19項目（キャリア形成への取り組みを含む）の各々はいずれも平均値 3.5 以上（伸びたことを意味する）であり、リエゾンゼミ I は学士力を伸ばす教育効果があるといえる。特に、ICT による情報収集は伸びの大きい項目にあり、リエゾンゼミ I を通して ICT による情報収集の学習が進んだことがみてとれる。

他方、論理的思考に関係する項目（レポート作成、表やグラフの活用、討議や調査など）は伸びているものの、伸びの程度が小さかった。リエゾンゼミ I では、これらも高めることを目標として取り組んでいるが、その学習の効果は充分とはいえず、教育上の改善または学習上の工夫を要する課題と思われる。

学習意欲（「入学時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった」）についても人間関係の意欲（「入学時に比べ、大学での教員・友人と意欲的に関わることができるようになった」）についても、平均値は 4.5 前後であり、リエゾンゼミ I を通して入学時よりも伸びたことが示された。つまり、リエゾンゼミ I は大学生活への意欲の伸びに対しても効果があるといえる。



6 非常にそう思う 5 そう思う 4 ややそう思う 3 あまりそう思わない 2 そう思わない 1 まったくそう思わない

4. 属性と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は、表 2 の通りであった。

性別では、女子が男子より人類の文化・社会と自然に関する知識の理解が低く、女子学生に対してより配慮が望まれる。

居住形態では、自宅以外が自宅より学習への意欲が低く、自宅以外の学生への配慮が望まれる。

部・サークル活動は、大学生活での人間関係の意欲に影響していることが示され、リエゾンゼミを通して部・サークル活動への所属を推奨することが望まれる。

ボランティア活動やアルバイトなどの社会との関わりも学士力に影響していることが示され、社会との関わりの経験が学士力の伸びには重要と思われる。

「キャリアデザイン」「実学臨床教育」「副専攻」の履修も学士力に影響するが、なかでも「キャリアデザイン」は学士力の伸長に大きな影響を持っていると思われ、「キャリアデザイン」の履修の推奨が望まれる。

表2 属性と学士力達成度・意欲の伸び

	性別	入試形態	居住形態	部・サークル活動	ボランティア活動	国際交流	アルバイト	「キャリアデザイン」	「実学臨床教育」	「副専攻」
多文化・異文化に関する知識の理解								ありなし		
人類の文化・社会と自然に関する知識の理解	男>女							ありなし		ありなし
社会や人生上の問題の解決に生かせる知識										
自律・自立した学習を続けていく知識										
話をよく聞き伝えたいことを表現できる								ありなし		
尊重しながらコミュニケーションをとることができる							ありなし			
レポートを作成することができる								ありなし	ありなし	
表やグラフを用いることができる										
ICTを用いて情報収集ができる										
ICTを用いて過程や成果を表現できる								ありなし		
多角的かつ論理的に分析できる										
自らを律して行動できる								ありなし		
他者と協調・協働して行動できる										
良心と社会の規範にしたがって行動できる										
社会の一員として、積極的に関与できる					ありなし		ありなし			
キャリア形成に取り組むことができる										
総合的に活用して学習活動できる									ありなし	
問題の発見を楽しんだりできる										
問題について解決へ導くことができる							ありなし			
学習に意欲的に取り組むことができる			自宅>自宅以外							
教員・友人と意欲的に関わることができる				ありなし						

5. 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表3の通りであった。

学士力の伸びと最も関連が強かったのが、キャリアセンターの利用である。その点で、リエゾンゼミにおける「キャリアセンターツアー」の実施はきっかけとしてとても有意義であると思われる。

次いで、ユニパでのクラス・プロファイリングの利用が学士力の伸びと関連が強かった。特に、汎用的技能、態度・志向性に関連していた。ユニパを通して教員やゼミのメンバーとの相互交流を通して態度・志向性も身につけていくことがうかがえる。リエゾンゼミを通しての利用の工夫が望まれる。

また、コミュニケーション・タイムの利用も学士力の伸びと関連が強かった。特に、知識・理解と汎用的技能、キャリア形成と関連していた。教員への質問や教員との語らいを通して、社会や人生に関する

る知識の理解を深め、汎用的技能を磨き、キャリアについて考えるようになることがうかがえる。ただし、利用が少ないので、利用促進が望まれる。

図書館の利用は、社会の問題や人生上の問題についての知識の理解や総合的な学習に関連しており、実際場面の問題の解決に対して役に立っていることがうかがえる。リエゾンゼミにおける「図書館ツアー」の実施はきっかけとして有意義であると思われる。

美術工芸館の利用は、多角的なものを見方を養うのに役立つと思われ、リエゾンゼミにおける「美術工芸館ツアー」の実施もきっかけとして有意義であると思われる。

ピア・メンターや web テキスト『学びとの出会い』、tfu 元気点検票は、自律・自立した学習に役立つと思われる。また、元気点検票かるたは協調・協働の態度を養うのにも役立っていると思われる。

表3 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び

	図書館	美術工芸館	キャリアセンター	保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	コミュニケーション・タイム	ユニパのクラス・プロファイリング	ピア・メンター	web テキスト『学びとの出会い』	元気点検票
多文化・異文化に関する知識の理解			時々・たまになし		ありなし	時々・たまになし			
人類の文化・社会と自然に関する知識の理解									
社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	時々・たまになし								
自律・自立した学習を続けていく知識			たまになし		ありなし		ありなし	時々・たまになし	たまになし
話をよく聞き伝えたいことを表現できる			たまになし						
尊重しながらコミュニケーションをとることができる			時々・たまになし						
レポートを作成することができる		時々なし	たまになし		ありなし	時々・たまになし			
表やグラフを用いることができる		時々・たまになし	たまになし						
ICTを用いて情報収集ができる			時々・たまになし		ありなし	時々・たまになし	ありなし		
ICTを用いて過程や成果を表現できる			たまになし						
多角的かつ論理的に分析できる		時々なし・たまに			ありなし				
自らを律して行動できる	時々なし・たまに					時々・たまになし			
他者と協調・協働して行動できる			時々・たまになし			時々なし			たまになし
良心と社会の規範にしたがって行動できる						時々・たまになし			
社会の一員として、積極的に関与できる									
キャリア形成に取り組むことができる	時々なし・たまに				ありなし				
総合的に活用して学習活動できる	時々なし・たまに		たまになし						
問題の発見を楽しんだりできる			たまになし						
問題について解決へ導くことができる			時々・たまになし						
学習に意欲的に取り組むことができる									たまになし
教員・友人と意欲的に関わることができる									

【資料 学士力達成度・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 入学時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識の理解ができた
- 2) 入学時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 入学時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を学んだ
- 4) 入学時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 入学時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 入学時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 入学時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 入学時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 入学時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 入学時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 入学時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 入学時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 入学時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 入学時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 入学時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 入学時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 入学時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざまな知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 入学時に比べ、社会を広く見わたし疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 入学時に比べ、発見した問題について情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 意欲

- 20) 入学時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった
- 21) 入学時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるできるようになった